

は　じ　め　に

北海道優良米生産出荷共励行会は、今回で47回を数えることとなり、この間、関係各位の方々には絶大なるご支援、ご協力をいただきましたことにつきまして、厚くお礼申し上げます。

平成21年産水稻の作柄は、全もみ数は平年より概ね多かったものの、7月中下旬の低温の影響により不稔もみが発生し、さらに8月後半からの低温傾向により粒肥大・充実が抑制されたことなどから、北海道農政事務所は北海道作況指数では89(475kg/10a)「不良」と発表されました。地帯別作況指数は、「やや不良」が渡島97、後志96、日高95、「不良」が石狩93、檜山・胆振92、北空知91、南空知89、十勝88、留萌87、上川83、網走57となりました。

登熟気温が低かったためアミロース含有率が、また、不稔もみの多発で蛋白含有率が平年と比較して高くなりました。ここ数年間、北海道米の評価は向上してきましたが、平成21年産北海道米の食味への影響が懸念されます。

近年の北海道米食味評価の高まりにより、道内食率も78%となるなど成果が出てきていますが、確実に売れる米にするためには、地域個々、生産者個々の生産技術の実践努力の積み重ねによって、良質・良食味米の生産が求められています。

共励会参加要件について審査対象年を直近3カ年と緩和して3年目になりますが、19年産や21年産の影響もありましたが、9件の参加をいただきました。当共励会開催に際し、審査委員の方々、ご参加出展いただいた方々、各JA、各農業改良普及センター、各地区米麦改良会等関係機関、団体各位よりご多用のなか多数のご指導、ご協力を賜りましたことにつきまして、心より厚くお礼申し上げます。

ここに当該審査概要をご報告いたします。このなかに最優良賞受賞の方々の経営概要について、受賞者、関係JA担当者、地域農業改良普及センター、北海道立農業試験場の方々に協力・執筆をお願いし、それらを収録しておりますので、22年産以降の良質・良食味米安定生産の参考にご活用いただければ幸いです。

最後になりましたが、本共励会実施にあたりまして、関係各位に多大なご協力をいただきましたことに対しまして、心からお礼申し上げます。

平成22年3月

社団法人 北海道米麦改良協会